

28PB-am240

正常妊婦の膣内細菌叢の網羅的解析

○杉田 隆¹, 張 音美¹, 倉門 早苗¹ (1明治薬大)

【はじめに】膣内細菌叢は *Lactobacillus* が優位となる。これにより膣内 pH が弱酸性に保持されて外来病原体の侵入を阻止している。一方で、流産・早産の多くは膣内の細菌叢の破綻によって発症する非特異的病原体による細菌性膣症が原因となる。この場合は *Gardnerella vaginalis* が優位となる。本研究では、正常妊婦の膣内細菌叢を経時的にパイロシーケンス法を用いて解析した。

【材料および方法】21 例の妊婦を対象として、妊娠初期、中期、後期に膣内帯下をスワブ法により膣内細菌を採取した。細菌 DNA を抽出後、FLX 454 次世代シーケンサーを用いてパイロシーケンス法により細菌 DNA を解析した。

【結果および方法】大部分の妊婦の膣内細菌叢の多様性 (Shannon diversity index) は妊娠期間中に大きな変化は認められなかった。ほぼ単一菌種 (*L. crispatus*, *L. gasseri*, *L. inter* 等) で推移した妊婦、2 菌種 (*Bifidobacterium breve* + *L. gasseri*) で推移した妊婦が存在した。一方で、*B. breve* から *G. vaginalis* に菌交代した妊婦も 1 例存在した。以上、正常妊婦の膣内細菌叢は比較的安定であり、本邦の妊婦の主要な正常膣内細菌叢は、*L. crispatus*, *L. gasseri* および *L. inter* と同定した。

【会員外共同研究者】順天堂練馬病院荻島大貴